

事業名 CD	0110010401	学校安全体制整備事業
細分化した事業名	学校安全体制整備事業	
事業担当課室 CD	500100	教育課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	将来を担う子どもをのびのび育むまちづくり	
	中項目	子どもが夢を持ち続けることができる教育の充実	
	小項目	学校教育の充実	
関連する個別計画等		根拠条例等	地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業実施要綱
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	全国的に、児童・生徒・教職員が被害者となる事件・事故が頻繁に報告されており、その安全対策が急務となっている。 児童・生徒が安心して教育を受けられるよう、地域の人材を活用し、地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備する。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市内小中学校及び幼稚園の幼児・児童・生徒及び教職員等
これまでの改善経過	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度 県委託をうけて、スクールガードリーダー1名を配置する。 学校運営日の週2日、青パトによる通学路や学校周辺を巡視する。 各学校にスクールガードボランティア(学校安全ボランティア)305名が登録し、登下校の時間や自宅前での活動体制を整備する。 平成19年度 小中学校7校に AED を設置及び市内3幼稚園に防犯カメラ設置補助金を交付し、体制の整備充実を図る。 平成20年度 北東小等児童通学路安全施設(ポストコーン)の補修による通学時の安全向上
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 ■補助金 ○その他(0)</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールガード3名(総務課所属)・スクールガードリーダー1名が青色灯パトロールカーで通学路・学校周辺を週2回(午前3時間、午後3時間)巡回する。 スクールガードボランティア(学校安全ボランティア)を順次募集し、必要な腕章・ベスト等を着用し通学路の巡視や自宅前でのあいさつ運動等、個人の出来ることを、出来る時にする(役割を決めたり、強制をしない)活動を展開する。 各小中学校1名の警備職員を配置し、児童・生徒・教員・学校の安心・安全を図る。 小中学校7校に AED を設置し、緊急対応体制を図る。 市内3幼稚園に防犯カメラ設置による安全体制を推奨し、その費用の一部を補助して安心・安全を図る。
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	<ul style="list-style-type: none"> スクールガード・スクールガードリーダーによる通学路等の巡視は計画のとおり実施出来た。 多数のスクールガードボランティア(学校安全ボランティア)が危機感を持って積極的に活動に参加し登下校時の付添いや通学路での巡視・あいさつ活動が活発に展開された。 各学校への警備員配置により、児童・生徒・教員の安全が確保でき、安心して教育が受けられた。 小中学校7校に AED をリース設置し、教職員を対象に使用講習を兼ねた「普通救命講習会」を1回開催した。 3幼稚園(愛生・白百合・英和)に防犯カメラを設置した。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	13,350	14,970	14,952
財源内訳	国庫支出金	0		
	県支出金	430	430	195
	市債	0		
	その他	0		
	一般財源	12,920	14,540	14,757
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00 0.12	0.00 0.12	0.00 0.06
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	829	819	403
D	総事業費(A+C) (千円)	14,179	15,789	15,355
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	443 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分かりやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	スクールガードリーダー活動日数（算出式数値）	90日（県指標）	90	90	90
成果指標	スクールガードリーダー活動率（算出式数値）	90日/90日 （県指標に対する実活動日数）	100.00	100.00	100.00
効率指標	不審者情報報告回数（算出式数値）	教育事務所に報告された情報	3	3	5

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない スクールガードリーダー・スクールガードの配置及び活動については、山梨県地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業要綱に沿って実施しており妥当である。7校への警備職員配置とAED設置及び3幼稚園防犯カメラ設置も実施しており妥当である。	
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない ・スクールガードリーダー・スクールガードボランティアは、防犯教室・研修等に積極的に参加し、現状を踏まえた活動を行っている。 ・小中学校警備職員は、入出者の確認や学校周辺の巡回が充実している。 ・小中学校設置 AED の使用講習会を数回開催した。 ・3幼稚園への防犯カメラは設置済である。	
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない ・リーダー経費は、県委託金でまかなっている。 ・スクールガードは、ボランティアなので、経費負担は非常に少ない。 ・学校警備職員については、安全を確保する手段として、適正であり妥当である。 ・AED は、5年リースであり、機種形態からしても妥当である。 ・防犯カメラ設置補助については、買取1園・リース2園と妥当である。	
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成	
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化（コストを集中的に投入する） <input type="checkbox"/> 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える） <input type="checkbox"/> 効率化（結果単位あたりのコストを下げる） <input type="checkbox"/> 簡素化（事業の規模や内容を縮小する） <input type="checkbox"/> 統廃合（他の事業と統合する、または廃止する） <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり	
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）	
	(1) 中長期的 学校内の安全確保について、民間委託や業務内容の手段・方法等を見直す。	(2)24年度 幼稚園の防犯カメラのリース期間は23年度で終了するが、園児の安全確保のため再リース又は買取りの補助を行う。
	(3)23年度 現行のとおり	
	22年度の改善計画 現行のとおり	
	22年度の改善結果 計画どおり実施	
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 地域の子どもたちを地域で守ることは、地域住民の理解と協力が必要不可欠である。今後も継続して勤めていくことが、必須である。		
課長所見	幼児・児童・生徒が安全・安心な環境の中で、教育が受けられるよう、地域と連携し、社会全体で学校安全に取り組むことと共に、今後もスクールボランティアを充実し、生徒の登下校の安全確保に努める必要がある。	